

ボトックス外来について

当院神経内科では眼瞼痙攣および片側顔面けいれんの患者様に対してボトックス（ボツリヌス毒素）による治療を始めました。

「まぶしくて目を開けていられない」、「片側の顔面がぴくぴくひきつる」などの症状にお悩みの方はご相談ください。特に中高年の女性に多くみられる病気です。

完全予約制：火曜日・水曜日午前中、土曜日終日

*初回は診察、治療適応があれば、後日ボトックスによる皮下注射施行。

（ボトックス注射は注文制となっておりますので、同意取得後の発注になります）

こんな症状ありますか？ 症状チェック

顔や目のまわりが、ぴくぴく動く、こんなことはありませんか？
年のせい、疲れているだけと思い込んでいませんか？もしかしたら治療の必要な病気が隠れているかもしれません。



こんな症状はありませんか

- 光がまぶしい**
普通の照明の下などでもまぶしくて目が開けていられないということはありませんか？

- まばたきの回数が多くなった**
特に目が痛い、乾くということもないのに、まばたきの回数が多くなり、ものが見づらくなるようなことはありませんか？

- 片目をつぶる**
自分で意図していないのに片目をつぶってしまうことが頻繁にありますか？

- 口元がピクピクする**
自分で意図していないのに口元がピクピクとしてしまうことはありませんか？

- まぶたがピクピクする**
自分で意図していないのにまぶたが頻繁にピクピクとしてしまうことはありませんか？

このような症状がありましたら、早めに相談してください。まずは外来看護師にご相談ください。

眼瞼けいれんや片側顔面けいれんは、とくに50歳~70歳代の中高齢者に発症することが多く、女性に多く見られます。どちらの病気もそのまま放っておいても自然に治る病気ではありません。けいれんの回数が多いと、日常生活に支障をきたします。

こんな治療があります ボツリヌス療法について

目がぴくぴくする、光がまぶしい、よく物にぶつかる、といった症状があっても病医院に行っても、ドライアイや眼精疲労などと診断され、薬を処方されてもまったくよくなりなないということが、以前は少なくなかったそうです。

現在では、医師の間でも眼瞼けいれんや片側顔面けいれんについて理解が深まり、ボツリヌス療法も広くおこなわれるようになってきました。

この項では、眼瞼けいれんと片側顔面けいれんのボツリヌス療法を中心に、皆さんにわかりやすく紹介します。

ボツリヌス療法とは



ボツリヌス療法とは、ボツリヌス菌が作り出すボツリヌストキシンを注射して、緊張している筋肉を麻痺させ、筋肉の緊張によって起こる眼瞼けいれんや片側顔面けいれんの症状を改善する治療方法です。

ボツリヌストキシンは天然のたんぱく質でできた毒素のことです。このことから、使用をためらう方もいらっしゃいます。しかし、ボツリヌストキシンは、規定の講習実技セミナーを受講した医師が正しく使えば、決して危険な薬ではありません。むしろ、効果は劇的で、治療を受けられた患者さんはまったく別の印象をもたれることが多いようです。

このボツリヌス療法は、現在日本では眼瞼けいれん、片側顔面けいれん、痙性斜頸のみに対して承認されている治療方法です。

方法（どのように行なうのか）

ボツリヌス療法は、緊張している筋肉に希釈したA型ボツリヌストキシンを直接注射するという方法で行われます。入院する必要はありません。当日こそ入浴や激しい運動はできませんが、翌日以降は、これまでと同じように過ごすことができます。

もちろん、注射液の中にはボツリヌス菌は入っていませんから、注射した後、その場所でボツリヌス菌が増えるなどということは、決してありません。

ただ、いつでもすぐに治療できるわけではありません。この薬は病院では保管できず、規定の講習実技セミナーを受講した医師が必要な分量を報告した上で、必要な分だけが病医院に届けられるという厳しい手続きで使用される薬なのです。

作用

ボツリヌストキシンは、神経と筋肉の伝達を遮断して、筋肉の緊張を取り除きます。ボツリヌストキシンは、注射した筋肉とその周りにある筋肉にしか作用しません。つまりボツリヌス療法とは、筋肉にボツリヌストキシンを注射することによって、注

射をした筋肉とその近くの筋肉だけの緊張を取り除き、効果を得る治療方法です。

効果と持続

治療当日には、ほとんど効果は現れません。通常では、2~3日してから、徐々に効果が現れてきます。治療の効果は1~2週間程度で安定し、数ヶ月持続した後、数週間かけて効果が消えていきます。

そのため、安定した治療効果を維持するために、効果がなくなったら、再度治療を行います。

どこに注射するの

眼瞼けいれんの場合

通常は1眼あたり6箇所、まぶたの筋肉内に注射します。

片側顔面けいれんの場合

顔面筋のうち強いけいれんが見られる部位に注射します。強いけいれんがある筋がいくつもある場合は、分割して注射します。

副作用

ボツリヌス毒素は、長くても数ヶ月で効果が消えてしまいます。副作用の多くはくすりの効きすぎによるもので、ほとんどは効果の消失と共になくなります。

どこへ行けば治療が受けられるのか

ボツリヌス療法は、どこでも受けられるというものではありません。薬を使うための規定の講習実技セミナーを受講した医師のいる医療機関に限られます。それでも、すぐに治療を受けられるわけではなく、診察を受け、医師が治療内容、薬の使用量を決定し、注射予定日を予約し、数日から2週間後、医療機関に薬が届けられてはじめて、治療が受けられるのです。

なお、この薬は使用する前の準備が必要な上、医療機関に長時間保存することもできません。予約した治療日時は、必ず守るようにしてください。

ボツリヌス毒素とは

ボツリヌス毒素（ボツリヌス毒素）は、ボツリヌス菌によって作られる毒素です。

1977年にアメリカで初めて斜視治療に対して用いられ、その後、眼瞼けいれん、片側顔面けいれん、痙性斜頸の治療にも用いられるようになりました。

ボツリヌス毒素のもっとも基本的な作用は、筋肉の緊張をやわらげる事です。そのため、筋肉の緊張やけいれんによって引き起こされる、眼瞼けいれん・片側顔面けいれん・痙性斜頸に効果的に作用します。